



小学5年生の時に父親を亡くした。忙しい母に代わり、卒業式は知人の親に出席してもらい、弁当は自分で作った。少年時代、「家族」というごくあたり前のような存在に、誰よりも強い憧れを抱いていた。

今月のよどじんは、
淀川区主任児童委員連絡会幹事長
おく せい いち
奥 誠一さん



子どもと一緒に大はしゃぎの奥さん

あいつだけでもいい。
きつとまちは良くなる。

あいつができる関係。毎日あいつを続けることで知り合いが増えれば、まちはきっと良くなる。大事なのは続けること。

あつ、おっちゃん来た〜!

小学校での絵本読み聞かせにも取り組む奥さん。始めた当時は、子ども達からの冷たい視線をひしひしと感じていた。しかし続けるうちに「あつ、おっちゃん来た」と、ごく自然な時間として受け入れられ、さらに「今日は何読んでくれるの〜」と期待の時間へと変わっていった。

生まれてきてくれてありがとう

誰よりも「家族」にこだわりをもって生きてきた。たくさん「子育て」に寄り添ってきた。だからこそ、今苦しんでいる親御さんへ伝えたいメッセージがある。「子育てはひとりでするものじゃない。頑張り過ぎず、人の力を借りてほしい。そして、心が落ち着いたら『生まれてきてくれてありがとう』の気持ちをゆっくり思い出してほしい」。

穏やかに語る奥さんのまわりは、いつもやさしい空気ですつまれている。

PTA活動からスタート

学校卒業後、子ども時代のお弁当自作が功を奏したのか、飲食業に就職した奥さん(※)。その後結婚し、子どもを授かる。それからは「少年時代の気持ちの反動です」と語るように、自身の子育てをきっかけに、小学校PTA役員など子育てに関するボランティア活動に積極的に携わっていく。

とめる、なだめる、手伝う人

奥さんが子育て中の親御さんの相談役や、子育てサロンの運営を担う主任児童委員となって6年。深刻な相談や、児童虐待、家庭内暴力といったつらい場面も見てきた。「昔は大家族の中に、とめる、なだめる、手伝うなど、いろんな役割の人が居た。でも今は核家族時代。ひとり親家庭も増えて、親と子だけの構図で、感情の逃げ場がなくなってしまう」と話す。

人と人がちゃんとつながっている。ここが肝心

ひとりで抱える不安や悩みに少しでも早く気づき、その気持ちに寄り添ってあげたい。しかし、まだまだ主任児童委員の認知度も低く、一筋縄では解決しないケースがたくさんあるという。「人と人がちゃんとつながっている。ここが肝心です。まちで会ったら『こんにちは』の



▲NPO法人の代表も務め、地域コミュニティの形成などに取り組んでいる

※文中の「奥さん」は誠一さん本人をさしています。